

令和4年度 第1回守口市総合教育会議

○議事日程

令和4年7月25日(月)午後1時00分 開会

○出席委員

市長	西端 勝樹
教育長	太田 知啓
教育長職務代理者	江端 源治
教育委員	杉岡 佐緒理
教育委員	田中 満公子
教育委員	古川 知子

○事務局

副市長	南野 哲廣
副市長	中村 誠仁
企画財政部長	西川 謙太
企画課長	仲嶋 浩平
企画課長代理	宮崎 啓吾
企画課主任	山本 晋士
企画課主査	山下 愛美
教育監	森田 大輔
学校施設整備監	長田 幸一
教育総務課長	酒田 宗利
学校教育課長	棹本 達也
学校教育課主幹	水野 敦夫
学校教育課主幹	市川 忠樹
保健給食課長	後藤 勝義
教育センター長	佐々木 幸子
教育センター主任	安田 勇輝

~~~~~  
◇ 午後1時00分開会

○西端市長

それでは、守口市総合教育会議を開催します。

教育委員の皆様におかれては、日頃より本市教育行政に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。また、本日もお忙しい中、御参集を賜りまして、ありがとうございます。本日は、令和4年度最初の総合教育会議です。活発な御議論、意見の場となればと存じます。

それでは、早速、議事に移ります。これ以降の議事進行は、全委員での活発な御議論や意見交換を行う観点から、事務局である企画財政部長が行うことといたしたいと存じます。

それでは事務局、議事進行をお願いします。

○事務局

これ以降の議事進行を務めさせていただきます企画財政部長の西川でございます。何卒よろしくお願いいたします。

まず初めに、本日の配付資料はお手元の次第に記載の3点です。よろしいでしょうか。それでは、早速ではございますが、お手元の次第に沿って、まず議題1「第2次守口市教育大綱に係る取組実績及び今後の取組予定について」を事務局から説明をさせていただきます。

○事務局

議題1「第2次守口市教育大綱に係る取組実績及び今後の取組予定について」を御説明いたします。恐れ入りますが、お手元の資料1「第2次守口市教育大綱に関連する事業の取組状況一覧」を御参照賜りますようお願いいたします。

本資料は、令和3年度から令和7年度までの5年間を対象期間とする「第2次守口市教育大綱」に掲げる取組について、令和3年度の取組実績と令和4年度の取組予定を記載しております。

まず、教育委員会事務局から、教育委員会の取組実績等について御説明させていただきます。

○事務局

それでは、教育委員会の主な令和3年度の取組実績と令和4年度方針について、御説明させていただきます。

まず、1ページから2ページにかけてですが、資料左側にあります①、③、④の基本方針「命を守る～安全安心な環境づくりとたくましく生きる健康と体力づくり～」における令和3年度の取組実績についてでございますが、1では児童生徒の安全を確保するため、各校

の危機管理対応マニュアルの確認を行うとともに、通学路の合同点検を実施し、3に表記しております学校から通学路での設置要望のあった箇所には、2, 197メートルのグリーンベルトを整備しております。

また、虐待防止として、関係機関との定期的かつ緊急時の連携をかなえつつ、生徒指導上の課題への対応として、昨年度よりも回数を増やし、10人のスクールカウンセラーによる事例検討会等の開催を行うとともに、スクールソーシャルワーカーによるケース会議等への参加も行ってまいります。非行防止教室や薬物乱用防止教室につきましては、守口警察や保護者会などと共同実施を行い、デジタル面でのトラブル防止等につきましては、SNSノート大阪の活用やタブレット端末のフィルタリングを行っております。

4では、体力向上アクションプランについて、検証と改善を行い、令和4年度につきましても取組を継続してまいります。

次に、3ページから4ページにかけてでございます。

資料左側番号5から8までにつきまして、基本方針「学力を伸ばす～一人ひとりの学力の向上と個性・創造性の伸長～」として、5、6では令和3年度における取組実績として、主体的・対話的で深い学びの実現と学びに向かう力の育成に向けた家庭学習の充実を図るべく、新たな学力向上プランの策定を行い、研究指定校における成果共有等のため、学力向上の担当者会議を5回開催しています。

また、読書週間や家庭学習の充実を図るため、学校司書の配置に加え、市費教員や地域ボランティアの活用によって、学校図書館の利活用の向上とともに、放課後学習会の実施を推進しています。

民間活力を活用した土曜日学習につきましては、小学校は令和2年度と同様に20回、令和3年度から始まった中学校では計38回行い、学習機会の提供に努めております。令和4年度からは新教員を各校に1名ずつ配置することによって、学力向上推進教員が業務に専念できるよう配慮し、「わかる」「できる」授業づくりの実践研究等に週1度のペースで全校の担当教員及び指導主任による会議を開催し、学校と教育委員会が一丸となり取り組んでいます。

資料左側番号7番では、子どもたちに必要な資質・能力を育成するために、学習用タブレット端末を活用し、誰一人取り残すことのない学びの実現に向けた取組実績として、全ての教科で利用可能な協働学習用アプリやクラウドツールを活用するとともに、臨時休業時等におけるオンライン授業の実施を行い、全ての学校に学習者用デジタル教科書を配備しております。

また、ICT活用を含む授業力向上研修の実施を行い、発達段階に対応した情報モラル教材の提供などを行うとともに、学習用タブレット端末の家庭学習での活用を推進するため、通信環境のない家庭に対し、モバイルルーター及びSIMカードを貸与しました。令和4年度においては、より一層の授業改善を進めるため、指導者用タブレット端末について、子どもたちと同様の機種を一斉整備し、学校教育情報化コーディネーターによる支援の充実と

大阪府「GIGAスクール運営支援センター」への参画による、教職員の支援強化を図ります。

また、府の加配を活用した研究指定校である錦小学校、八雲中学校を中心に、ICTを活用した授業実践の研究を行うとともに、学習者用デジタル教科書の実証事業重点校である守口小学校においても公開授業などを行い、デジタル教科書の活用を進めています。

次に、5ページに参ります。資料左側番号9番、10番ですが、基本方針、魅力ある学校づくりを推進する～教育環境の整備～における令和3年度取組としては、先日のICT機器の整備とともに、近年の熱中症対策の一環としてウオータークーラーを小学校1校に設置、中学校5校の機器の更新を行っております。

また、令和3年7月には、教育環境向上に向け、新たな学校の在り方と学校規模の基準について「守口市新しい学校・園づくり審議会」に諮問を行い、令和4年3月に答申を受け、現在、学校規模と適正化基本方針の改訂に取り組んでいます。

最後に、7ページに参ります。資料左側番号13になりますが、基本方針「人・地域がつながる～子どもを育てる活動・ネットワーク化の促進～」における令和3年度取組として、学校運営協議会を中心とし、9年間の学びと育ちを支える教育コミュニティづくりの推進に努めておりますが、令和4年度についても、年5回程度の協議会の開催を行い、その充実に向け、取り組んでおります。

以上、誠に簡単な説明ではございますが、教育委員会での主な取組になります。

#### ○事務局

次に、企画課から、市長部局の取組実績等について、項目が多岐にわたりますので、主なものを御説明させていただきます。

7ページに参りまして、資料左側⑮の基本方針「生涯学べる社会をつくる～文化・スポーツを通じた、生きがいのある地域社会の実現～」における、市立図書館に関する生涯学習・スポーツ振興課の令和3年度取組実績としましては、「守口市立図書館運営方針」で定めた蔵書数拡充計画の目標、令和3年度18万5,000冊に対して、実績19万5,876冊。市内認定こども園、小・中学校を始めとした団体等への団体貸出しを行うなど、関係機関との連携などを実施しました。

また、令和4年度取組予定としましては、「守口市立図書館運営方針」で定めた、年度ごとの蔵書数拡充計画に基づき、蔵書数の拡充と資料の充実を図る。市内認定こども園、小・中学校を始めとした団体等への団体貸出しを行うなど、関係機関との連携。電子図書館は令和4年7月1日から実施などを行う予定としております。

8ページに参りまして、次に、資料左側⑯の先ほどと同じ基本方針における文化財に関する取組について、生涯学習・スポーツ振興課の令和3年度取組実績としましては、市立図書館内の郷土資料展示室で古文書や郷土資料の保管・展示の実施、文化財ガイドマップの更新や「図説もりぐちの文化財」などの設置などを実施しました。

また、令和4年度の取組予定としましては、市立図書館内の郷土資料展示室で古文書や郷土資料の保管・展示の実施、郷土資料等を活用したイベントの実施、市文化財研究会との共催で文化財展、市民文化財講座、子ども考古学教室の実施などを実施する予定としております。

最後に、資料左側⑱の先ほどと同じ基本方針における「学校給食への食材の支援や児童の農業体験事業などに関する取組」について、地域振興課の令和3年度の取組実績としましては、地場産野菜の学校給食活用事業として、市内小学校へ6月にタマネギとジャガイモ、そして12月には大根を市内農家や関連団体から提供を実施しました。

また、令和4年度の取組予定としましては、引き続き、安全・安心が確保された地場産野菜の学校給食活用事業の支援、市内農家や関連団体の協力の下、市内農地を活用した市民向け農業体験への取組を行う予定としております。説明は以上でございます。

#### ○事務局

ありがとうございます。ただいま事務局からの説明が終わりました。

各委員の皆様におかれましては、これらに対して御質問だけにとどまらず、御遠慮なく積極的な御意見や御提言などをいただければと存じます。皆様、いかがでしょうか。

#### ○西端市長

今の報告にもあったように、学力向上推進教員について、全校に配置が完了したという報告がありましたが、各学校の現場では、どのような活動をしていただいているのか、具体的に説明してもらえますか。

#### ○事務局

学力向上推進教員を明確に位置づけたことで、各校の学力向上推進プランに基づいた取組が具体化して進んでいます。毎週火曜日にオンラインで会議を実施して、各校の好事例等を共有する取組を行っています。

また、各学力向上担当教員は、普段、他の教員の授業観察をして、それぞれの教員の好事例等を収集し、学力向上通信等を発行して、良い取組を広げる活動もしています。また、学力状況調査の子どもたちのつまずきについて、その教員が中心となって、積極的に分析を行っています。

さらに、各校区の担当者が中学校区で会議を行うなどして、中学校区の小中一貫教育の取組を進めているところです。そうしたことを取り組むことによって、学力向上の取組が学校全体に、組織的に進むとともに、中学校区でも進んでいる状況でございます。以上です。

#### ○西端市長

今、実施している効果検証の結果はいつ頃に出ますか。

○事務局

全国学力学習状況調査の結果につきましては、市へ国から結果が届き、提供されたデータについて分析しているところで、10月に各校が、市としては9月の段階で公表できるよう進めているところです。

○西端市長

9月に検証するということですか。

○事務局

今年度からの取組なので、効果等は次年度以降に出る予定です。

○事務局

今、担当が申し上げましたのは、全国学力学習状況調査の今後の分析のことについて申し上げました。この市費教員を配置したことによる効果等につきましては、学期ごとの児童生徒に対するアンケート、また今年度から新たに教員向けのアンケートも実施を始め、7月に実施したところです。今後、11月、2月と、アンケートをしていきますので、それを分析することによって、教員の授業に関する、また子どもたちの家庭学習に関する取組の改善を進めてまいります。

○西端市長

学期ごとに締めて、状況判断はしていくということですね。

○事務局

そのとおりでございます。また、そのアンケートの中身は全国学力学習状況調査で実際に全国の子どもたちが答えているアンケートの項目と一致させておりますので、そういった比較もしていくことができます。

○太田教育長

先ほどの市長の発言に関連して、私、2年前にもちょっと申し上げましたが、この取組状況のまとめ方について、何回行ったとか、何人だったということばかりが書いてあって、さきほど市長もおっしゃったように、子どもたちの学力がどのように上がったのかとか、タブレット端末にしても、配備したといった結果だけではなくて、どれぐらい使われているのかなど、そういったものを踏まえてその子どもたちがどういう学力が伸びたのか、あるいは子どもたちの意識がどういうふうに変化したのかっていうのが、ぜひアウトカムを書くような形でまとめてはどうでしょうか。

ぜひ令和3年度はもう少し補足も必要だと思います。また、令和4年度については、学力向上推進教員の配置を通して、具体的にどういうことをやって、その結果、子どもたちの意識がこういうふうに変ったとかという、そういったものをぜひ示すような取組を記述していただけるといいのではないかと思います。また、企画課と教育委員会でご相談していただけたらと思います。意見というか提案です。

○事務局

承知しました。検討させていただきます。

他にごございましたら、お願いいたします。

○古川教育委員

子どもの意欲や関心といったことも恐らくアンケートで出てくるとと思いますので、ガバナンスの探求の学びとかも大事だなと思っていますので、そういう観点でも表現されていると、私たちが分かりやすいと感じています。よろしくをお願いします。

○西端市長

私ばかりの発言になって恐縮だが、土曜日学習と放課後学習を進めていただいて、今でもう小学校からしたら4年ぐらい経ちます。

その結果として、全国学力テストの結果は、それに伴ってやはり右肩上がりに上がっていくところが理想やと思いますが、今の守口市の状況としては、まだそこまでなかなか行っていないというのが現実ですが、徐々に効果は目に見えて出てくるようになってくるのでしょうか。

○事務局

今、市長からご指摘いただきましたように、土曜日学習については、小学校5年生、6年生、そして昨年度から中学校1、2、3年生と実施させていただいております。

本市の取組としては、小中一貫教育をしっかりと取り入れられて行っているところもありまして、小学校段階の課題を中学校に引き継いでしっかりと改善していくという取組を行っており、小学校の同一集団が中学校に上がったら、中学校3年生のときの伸び率が、全体的にかなり高い状況が続いていることが見て取れます。

やはり、中学校3年生が卒業する段階で、子どもたちの学力も徐々についているというふうに、我々としては分析しておりますので、現在、土曜日学習についても、中学1、2、3年生とやっていくことで、そういう子どもたちも着実に力を身につけていくものだと考えています。

○西端市長

今、土曜日学習に通っている皆さんは、自分の判断でいきたいってということで、通ってもらっているのか。先生からも、学習が必要な生徒に行きなさいよという指導はされていますか。

○事務局

学校からの声かけというのももちろんしておりますけれども、お子さん本人と保護者の方が相談しながら頑張っているところもあり、両方から取り組んでいるところです。

アンケートの結果も出ていまして、土曜日学習を始める前と比べて「分かるようになってうれしい」とか、「国語や算数の勉強をもっと頑張りたい」といった学習意欲の部分が、土曜日学習でも年3回、4月と10月と2月にアンケートを取っており、ここでも子どもたちのやる気が上がっておりますので、土曜日学習は必要だととらえております。

○西端市長

そうだけど、土曜日学習でこれだけの成果が出てくるというのは、まだ今のところはなかなか出てないということですね。

○事務局

今、アンケートのことで申しましたのは、令和3年度の年度当初と年度末の比較で、一定、年間通して向上が見られるところから、継続的に実施していく中で、さらに伸ばしていけたらと考えております。

○事務局

確認テストも行っています。確認テストの令和3年度の当初と年度末の確認テストの結果を見ますと、偏差値はほとんどの学年で伸びてきています。具体的には、5年生の国語では1.8ポイントの増加、偏差値として51.3、算数は0.2ポイント増加、偏差値52.2、6年生の国語では4.5ポイント増加、53.7、算数では9.1ポイント増加、偏差値54.5という形で向上が見られています。中学校においても、1、2年生においては、小学校同様、国語、数学とも年度当初と比べたら、偏差値が向上しております。中学校3年生だけ、偏差値は伸びているものの、50に少し届かなかった状況が確認できています。

○太田教育長

やはりそういう指針や指標こそ出していかないといけないと思います。それを出すことによって、今、参加していない子どもたちや保護者も参加すると学力がちゃんと定着すること、あるいはなかなか家では自学自習しにくいけど、ここに参加するとできることを示



すことで、この土曜日学習に参加するきっかけにもなる可能性があると思いますので、そういった成果を合わせて、もっともっとこれからPRしていかないといけないと思います。

#### ○杉岡教育委員

実体験として、うちの子はちょっと参加をしていないが、先輩の保護者のお母さんから土曜日学習とってもいいよ、無料なんやでと、休みのときも欠席連絡もすごくしっかりしてくれるし、きっちりと指導もしていただいていると。

成績もうちの子、伸びているから、やったほうがいいよというような勧めも聞いたことがあります。保護者からの信頼は厚いと思います。

#### ○江端教育委員

見えるように、分かるようにという趣旨で、具体的な柱になる数値を求めるということは、もちろん理解できます。

一方、私はいつも言うのですが、せっかく5年間の守口教育大綱を待っているわけですから、その基本に、郷土を誇りに思っているわけですね。夢と志を持って、国際社会で主体的に行動する人の育成に関してどうしていくかというコメントがあんまりないように思います。郷土を誇りに想いと言っているんですが、どこにそれが書いてあるんだろうという感じもするし、別に指標化や数値化しなくても感覚的に感じるものでもいいので、最近、子どもたちが学校で僕はこれをしたい、これやりたい、何になりたくなったということは、肌で感じるができると思うんで、そうしたこともぜひ大きく捉まえて、そして何か気づけば、次に新しいことをちょっと仕掛けようかと、そういうことの繰り返しができるようになれば素晴らしいと思います。国際社会でということに関しては、別に守口で頑張っても構わないと私は思います。

#### ○古川教育委員

以前に、小学校何年生かの子どもたちが1クラス、地域の高齢者の方々に市内の名所・旧跡などを案内してもらっていたことがありました。

今、江端委員おっしゃったことに関連させても良い取組だなと思っていて、せっかくコミュニティスクールが全中学校区に展開されているので、市の本当に特別な取組だと思いますので、広報で周知されたらいいかなというふうに思います。

#### ○太田教育長

追加で関連して、古川委員に非常に大切なことを言っていただきました。やはりきちんと指標となるものを使って見ていくことが必要だと思いますので、守口市の子どもたちは、例えば全国学力学習状況調査でも、自分に良いところがあるとか、将来に向かって夢

があるというのが他の地域に比べると低い傾向もあります。ペーパーテストばかり注目されて、ペーパーテストでの全国平均との差は本当に1問未満のような状況ですが、他方、こういった子どもたちが将来のことや自己肯定感については全国平均と比べて顕著に低いような状況が見られます。

また、地域の行事への参加意欲や地域の課題を解決したい意欲についても、アンケート結果で出ておりますが、これも10ポイントぐらい低く、やはり守口の将来を支えてくれるのは、守口の子どもたちですので、ぜひこういったことに力を入れてやっていかないといけないと考えております。

今年から、「わたしたちの守口」という教材についても、これまで紙の教材だったものを電子化して、単に知識として学ぶだけではなくて、自分たちで調べて、自分たちで課題解決するような教材を今、作り始めておりますので、そういったものを活用しながら、子どもたちが、自分たちが住んでいる自分たちの町を自分たちの手でよくしていくんだということを、子どもたちの時代からきちんと育てていくことをやはり教育の柱にしていかなければいけないと思いますので、ぜひこういったものも力を入れていきたいと思っております。

#### ○田中教育委員

それでは、学力向上に関することで、お聞かせいただけたらなと思うことがあります。新しくなった学習指導要領の中の一つのキーワードとして、カリキュラムマネジメントというキーワードがあるかと思えます。それは、探究的な学習の部分で進めていくという一つのアプローチがあるかと思えますし、それ以外に学校現場として、この後にある発表も楽しみにしているが、もし何かそういう事例がありましたら教えていただけたらと思えます。

#### ○事務局

今、ぱっと頭に思い浮かびましたのは、防災教育の視点でも各学校は地域の方々の力を得ながらカリキュラムを編成し直して取り組んでいることがございます。中学校区での教育フォーラムで防災のことを取り上げ、また避難訓練等も学校だけで閉ざした空間でやるのではなくて、地域の方や保護者の方も参画いただいての訓練等も行っています。

そういった今まで避難訓練だけに留まっていたものを、いろんな各教科等々組み合わせで取り組んでいる事例をご紹介させていただきました。

#### ○事務局

ただいま、さつき学園の学校運営協議会の中でも今議論されているのが、ふるさと学と言いまして、さつき学園の近くには商店街が地域にございます。前期課程で、職業のことについて学んでいく等、中学生になりますと、職業体験をするというこの9年間のカリキュラムを考えたときに、やはり地域のそういった商店街の方たちと交流し、地域の中で学

んでいく。実際に行ってインタビューしてみるなど、地域の学校運営協議会の中で協議しているところで、実際にふるさと学という名称で、今動き出そうとしているところがございます。

#### ○杉岡教育委員

私も学校運営協議会に参加しているんですけども、先ほどふるさと学のお話をいいなと思ったので、学校運営協議会をもっと活発にするために、その地区ごとにこの1年間どんなことを考えて、どんなふうに進めていっているかみたいなものを、全地区の分を資料として1年に1回いただけると、また私の地区でも、また別の考えが浮かんだり、いろんなことに繋がっていくのではないかと思いますので、ご検討いただけたらと思います。

#### ○事務局

ありがとうございます。我々としましても、教育委員会事務局が、各地区を担当して回らせていただいております。各校の中学校区の資料もありますので、1枚ものにまとめて、校長会はもちろん、各学校運営協議会にも、提供をさせていただきます。

#### ○西端市長

今、教育委員会の「わたしたちの守口」かな、これも電子化するというので、守口はこれまでからICTに力を入れてやってきましたけど、今、1人1台のタブレット端末を皆さんにお配りして、それを授業で使っていると思うんですけども、これも効果というか、その利用度というか、これはどれくらいの頻度で、各授業で使われているんですか。

#### ○事務局

頻度としては、学校や発達段階に応じて様々異なりはしますが、毎日使っております。学年が上がるにつれて、ほとんどの授業で活用しているという例もございます。

#### ○西端市長

ほとんどの授業ということは、必ずタブレットは授業に必要だということですね。それなら今、コロナ禍で家に持って帰って使えるよう、家の環境整備も予算をつけたと思います。家に持ち帰って、学校が休校しているときはタブレットを使って、遠隔で授業をした実績も生まれてますよね。

#### ○事務局

はい。昨年も特に4月以降、休校や学級閉鎖になったことが非常に多く発生しております。その時には、全ての学校においてオンラインで授業を配信することができて

おります。子どもたちの家庭での活用においても、その配信を家で見るというところについては、学校での日々の学習の中でそのスキルをきちんと取得してまいりましたので、滞りなく授業が進んだと感じております。

#### ○西端市長

今年度の予算で、各先生方にも1人1台の子どもたちが使っているタブレットと同じ機種を予算化したと思うが、各先生方に配置されているタブレットはもう手元に届いていますか。また、これまで活用して、その先生方の反応はどんな感じですか。

#### ○事務局

このたび、購入させていただきますものは、納期を11月末までとしております。もちろん、可能な限り早く納品されるように業者と相談をしております。

ただ、既存のiPadも活用してということですので、各校4台程度、子どもと同じタブレットを教員用に設定を変えて、既に6月に各校、配備しており、その後、各校に使用状況を確認いたしました。全員分ではないところではあるんですけども、配付している分については、授業の中で協働学習で使用しているミライシードやマイクロソフトのチームズを活用するなど、ほとんどの学校で十分に活用していると伺いました。

#### ○太田教育長

I C Tについて補足すると、私も先月から教育委員会と一緒に学校訪問して、実際に学校現場を見てきているのですが、タブレット端末は本当にかなり使っていることを、これはデータではありませんが、実感してきました。

また、オンライン授業ですが、1学期末からまた感染者が増えて、出席停止の子どもたちが増えましたが、どの学校でも先生の前にタブレットやカメラを用意して配信することは、当たり前になっていました。

また、家で見ている子どもたちに対して、カメラに向かってちゃんと今の分かったかと先生もいろいろ声がけするようになって、オンライン授業も大分質が上がってきたという実感があります。

タブレット端末は、本来は授業で使うことを目的に入れたものですから、使っている頻度については、本当に子どもたちがプレゼンをするときに自分たちでもどんどん調べたことをまとめて、それで友達同士で話し合っており、ある学校ではそういったものを発表し合っている姿を見て、子どもたちのスキルと言いますか、自ら学ぶ力はすごいと実感しました。やはり、子どもたちが道具として使えるようにすることが目的ですので、こういう取組をもっともっと進めていかなければなりません。また、そういったところを外部の方が見られないということは非常に残念だと思いますので、教育委員会としてもこういった取組を紹介していきたい思い、特に今日、後ほど八雲中学校の発表がありますが、生徒た

ちが本当にすごく使いこなしていたので、ご紹介していただけると楽しみにしております。

○西端市長

杉岡委員からの保護者の皆さんに、この土曜日の学習塾を好評だということで、他市で民間の事業者入れて実施している自治体はありますか。

○事務局

この土曜日学習の授業を開始する際に、当時の府下の状況等確認をさせていただいた。今ちょっと資料がないので確かな数値というものはお伝えできないんですが、複数の自治体でこの民間の事業者を活用した学習会を開催しておりますが、本市で取り組んでおりますように、原則3名程度に1人の講師をつけた、きめ細やかなこういう指導形態というのは、他市ではあまり実施されていない。他市の場合は、もう本当に一斉授業のような形でされているというふうには聞いておりません。

○西端市長

今、小学校、中学校に通っておられる保護者の皆さんはそういう授業をしているなということも分かってもらえますけども、なかなか市民全体には浸透はしていないんで、もうちょっと他市にも響くようにやってもらって。何かちょっと、方策を取らないといけないな。

○事務局

しっかりPRしていきたいと思います。

○田中教育委員

不登校とかスクールカウンセラーとかスクールソーシャルワーカーの活用のところ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに対して、例えば不登校の回復などの数値目標を一定、示されるのも一つかなと。やはり専門職の方で、いろいろサポートしてくださる方も目標を同じ方向を向いて学校に参画してもらおうというふうなことも、もっとあったらいいなというふうに思いました。

○事務局

今おっしゃっていただきました、そういう目下の目標値の設定については、今現在は、各学校毎に不登校等の実情に応じて設定しており、今後、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家の方もしっかり共有しながら取り組んでいけるよう

に、進めてまいりたいと考えております。

○事務局

それでは、議題1につきましては以上とさせていただきます、続きまして、議題2「学校園づくり審議会の答申を踏まえての今後の学校教育施設の整備（既設校を含む教育環境の向上）の検討方向について」を事務局から説明をさせていただきます。

○事務局

今後の学校施設整備の検討について、守口市新しい学校園づくり審議会の答申を踏まえた進捗について、簡単ではございますが、御説明申し上げます。

まず資料1、守口市立学校施設整備の進捗として、教育委員会においては、令和2年度に国が進める長寿命化改修を基本とした学校施設の老朽化対策に関する計画として、令和3年3月に「守口市立学校施設整備計画」の策定を行っております。

令和3年度においては、7月に主体的・協働的で深い学びの実現に向け、学校教育制度の変化や老朽化する学校施設への対応とともに、適正な学校規模について検討するため、守口市新しい学校・園づくり審議会に対し、市立小中学校等の在り方についてを諮問し、計6回の審議会を経て、令和4年3月に小中学校9年間を見据えた学びの充実、地域との協働やICT活用の視点を取り入れた新しい時代の学校教育を柱とする第3次答申を受けております。

次ページに参りまして、2. 第3次答申における施設整備に関する提言としては、大きく分けて4つの項目をいただいております。1として、多様な子どもたち一人一人が主体的・協働的で深い学びを行う学習環境、2といたしまして、学校規模適正化からの学習環境、次ページに参りまして、3、安全・安心を確保できる教育環境、4といたしまして、社会に包容された学校、こちらにつきまして、御提言いただいております。

次ページに参りまして、3. 守口市学校規模等適正化基本方針改訂版案の施設整備の具体的な内容につきましては、大きく4つの項目がございます。1として、教室不足が予想される守口小学校の校舎整備、2といたしまして、校舎の老朽化対策が喫緊な下島小学校と八雲小学校の統合、さらには八雲中学校を含んだ義務教育学校の設置、3といたしまして、教育環境向上とともに、避難所機能の向上も見込める屋内運動場への空調設備の設置、4といたしまして、既存校の校舎整備として、学習環境向上とともに設備の老朽化対策も含む長寿命化改修を基本とした計画的な施設整備について検討しております。

全ては子どもたちにとってよりよい教育環境整備の観点から行うものとし、施設整備の検討に当たっては、守口市立学校施設整備計画との整合を図っていく必要があることから、次ページにおいて、そのイメージ図を示しております。

もう1ページめくっていただきまして、最後に4. 今後の学校施設整備の予定として、令和4年度の現在までの進捗としては、第3次答申を踏まえ、平成20年3月策定の「守口市学

校規模等適正化基本方針」について、5月教育委員会定例会において改訂版案を作成し、現在7月1日から7月31日までの間、パブリックコメントを実施中です。その中で、具体的な方策である守口小学校の校舎整備に向け、令和4年7月には守口小学校測量業務委託の契約を締結するとともに、屋内運動場の空調設備についても、設置可能調査業務委託の契約を締結しております。

今後の予定としては、8月の教育委員会定例会で「守口市学校規模等適正化基本方針改訂版」の策定を目指し、合わせて、守口小学校の校舎整備の方針を決定するとともに、保護者や地域への説明会を行い、八雲中学校区統合実施計画の策定を行ってまいりたいと考えております。また、11月末までの空調設備調査業務委託の報告書を基に、屋内運動場空調設備設置の方針を決定するとともに、既存校の校舎整備のおおむねのスケジュール感についても、今年度中に取りまとめた上で示してまいりたいと考えております。

最後に、参考資料として、守口市立学校の施設状況として、児童生徒数の推移と学校施設の築年数についての資料を添付しております。

以上、誠に簡単な説明ではございますが、今後は御説明いたしました内容、スケジュールについて鋭意取り組んでまいりたいと考えております。

#### ○事務局

ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、引き続き、各委員の皆様から忌憚のない御意見や御提案などがありましたら、ぜひともお願いいたします。

#### ○西端市長

今回はここにも屋内運動場と体育館の空調設備の話が出ていますが、どう進めていくのですか。

#### ○事務局

現在、屋内運動場の空調設備の設置方法につきまして、委託業務を締結しております。本市にとってこういった形が一番効果的・効率的に設置していけるかというのを業者の調査を基に検討していただいております。

当然、契約方法、維持管理方法につきましてもそうですけども、実施した中で、国の財源とかもこういったものを活用していけるかと、そういったところも踏み込んで検討していこうというふうに思っております。

#### ○西端市長

設置するに当たっても既存校と新設校の断熱仕様をしている校舎としてない校舎というのが分かれてくると思う。

新設校は設備もしっかりできていると思うが、既存校はなかなかそこまでできていない

ので、設置についても順番や進め方は教育委員会と市長部局も合わせて、今後しっかりと意思疎通を図りながらやっていかないことには、新しい学校ばかりに早い段階で空調設備がつくと、市民の皆さんから見たときに、新しいところばかりよくなっていくと思われてもいけませんので、ここはやはり教育委員会と市長部局と、また教育委員の皆さん方といろいろ話をしっかりし、意思疎通を取りながら進めていきたいと思っておりますので、またよろしく願いをいたします。

#### ○事務局

今、御意見いただきました内容について、最終的には今市長がおっしゃったとおり、順番についてはやはり教育委員会と市のほうで決定していく。今その基となる概要という部分を委託業務のほうで調査いただいておりますけど、最終的には一気に進めていくというのは、なかなか財源面も含めまして厳しいものがありますので、市民の皆さんが納得いただけるようなスケジュールについて、今後、策定してまいりたいと思っております。

#### ○太田教育長

空調に関しては、全国でもこれから屋内運動場の空調を進めていくということで、最新のデータによると、全国で約5%程度の導入に留まっています。これから各市で計画を立ててやっていくと思っておりますので、本市でも幸いなことにこういった形で整備する手順ということを御理解いただいておりますので、着実に実現可能な方向で進めていかなければならないと思っております。

先ほど、これから教育総務課で委託して、いろんな手法を研究していくというのは伺いましたが、また、他市でもさまざまな管理も含めた整備について民間委託しているケースも出てきておりますので、そのような他市の取組も参考にしながら、本市として最適な方法を探りながらやっていかないといけないと思っております。

やはり、屋内運動場の空調整備は、子どもたちの学習環境にとっても本当に大きな効果をもたらすと思います。各学校の施設の状況は異なりますので、どういうふうにやっていくのかというのを、しっかりと考えていきたいと思っております。

また、本日も午前中に教育委員会の定例会があり、少し議論しました。教育委員会としても、やはり子どもたちの学習環境の在り方については不断に議論していきたいと思っておりますので、その上でまた御相談していきたいと思っております。

#### ○事務局

この件に関しては、先ほど市長からもあったように、企画財政部長という立場からも、しっかりと教育委員会と市長部局側とで連携を取ってということでしたが、それ以外にも御紹介のあったような守口小学校の整備や新たな義務教育学校の整備など、様々な大規模事業を検討していかなくてはいけないと思っておりますので、市長のリーダーシップをいただ



きながら、しっかりと連携を取って検討していきたいと思っております。

#### ○西端市長

先ほど、部長からお話があったように、本市では私が就任して以来、学力向上も力入れないといけないということで、ICTや電子黒板など、いろいろやってきています。

それに付け加えまして、少子化で統廃合をしないといけないということで、統廃合については、片一方の学校に統合するのでは地元の皆さんの同意が得られないだろうということで、統廃合については、新しい学校を新設するという方針でこれまで進めてきましたので、教育に対する予算もかなり費やしてきました。

その中で、教育費の総予算のうちの教育に関する予算の比率は、各市出ていると思うんですけども、かつての守口市では社会教育の部分は公民館が教育費に含まれていたが、公民館を廃止してコミュニティセンターにした今では市長部局の予算に含まれるなどの各市いろいろと条件が違う部分があると思うが、本市と他市との教育に使う比率の割合について、試算しているのですか。

#### ○事務局

これは私から発言させていただきますが、正直、いろんな捉まえ方があるので、なかなか難しい側面はあるのですけれども、例えば今、市長がおっしゃったように、守口市では市長部局として予算取りしているが、他市では教育費として勘定されていたり、逆もしかりだったりもするので、なかなか一概に比較というのは難しいですが、少なくとも、先ほど市長がおっしゃったような新しい学校の整備というのは、守口市に一日の長があるというか、積極的にやってきた部分だと思いますので、少なくとも他市と比べても遜色のない教育費の予算、決算というのが見て言えると思っております。その辺りの分析はなかなか難しいところではあるのですけれども、しっかりと進めていかないという部分ではあるかなと思っております。

#### ○西端市長

北河内7市で、大体守口市はどれぐらいの当初予算で、どれぐらい教育部分に費やしているか。他市ではどれぐらいというのは、それぐらいのことは出ますよね。

#### ○事務局

出ます。特に決算については、各市統計を統一的にやっていますので、そういうので比べるということは可能ではあります。

#### ○西端市長

では、一度、そういった資料も出してもらえたらいいのでは。

○事務局

そうですね。まさに今後、秋から冬にかけて予算編成に入っていきますので、しっかりと議論するためにも、そういった数値を分析して、この会議でデータとしてお示しさせていただいて、議論していただくということは可能かなと思います。

○江端教育委員

それ、面白いと思います。ぜひ、やったらいいですね。ただし、おっしゃっているようにいろんな角度があるので、正確な比較はほぼ無理だと思います。しかし、やらないよりはやったほうがいいと思います。この数年間、いやその前からすごいスピードで新設校を建てており、間違いなくあれは教育にかけたお金ですから、そこだけ見たらトップクラスみたいな形になると思いますね。すばらしいと思います。また、教育はもちろん情熱も必要ですが、それだけではなく、やはり継続して費用も必要ですので、きちんと見ていく必要があると思うんですね。面白いと思います。

○太田教育長

少なくとも教育委員会に関して言えば、本当に本市は断トツだと思いますし、やはりインフラ部分に投資していただいたのは本当にありがたいなと思っております。やはり限られた予算、財源ですので、これから予算を外側だけではなくて、質的なものをちゃんと高めていかないといけないと思いますので、来年度の予算において必要なものをまたお願いする際には、きちんと効果をお示ししながら、お話ししていきたいと思います。

○事務局

そこは次回の会議に向けて、準備させていただこうと思います。

○江端教育委員

12月にも空調のことをお話させてもらっているが、効果抜群だと思いますので、かなりの力を入れて進めてやってほしいですね。教職員だけでなく子どもたちの体育の授業も含めてすばらしい効果になると思うので、やれるところはどんどんやると機運が上がっていき、やってもらってないところは、何で自分のところはとかなる。それでいいと思います。そしたら、またその取り組むエネルギーになっていきますので、ぜひともやっていただけたらと思います。

○西端市長

今、答申が終わって、今、委託している業者の成果物は、いつ頃それは出てきますか。11月には、どこの学校からやっていったらいいということが出てくるのでしょうか。

○事務局

そうですが、学校については、市で決定していくことになります。

○西端市長

それでは、今年度中には決められるということですね。

○事務局

それでは、続きまして、議題3の「学校現場からの発表・プレゼンテーション テーマ“守口市の学校教育の未来図について”」でございます。

詳細について、事務局から説明をさせていただきます。

○事務局

議題3「学校現場からの発表・プレゼンテーション テーマ“守口市の学校教育の未来図について”」の詳細について、御説明いたします。

本プレゼンテーションは、本市が主要施策の一つとして掲げる学校教育の充実に向けて、その柱である「学力向上」を始め、学校教育の様々な分野から、現場の教員や学校の発意による独創的、先導的な教育実践を発表いただくもので、各委員には発表をお聞きいただき、自由に御意見などをお出しいただければと思います。初の試みですが、こうした先進事例を市教育行政としてどうバックアップし、施策化につなげていくかのヒントとするため、“守口市の学校教育の未来図について”をテーマに、発表・プレゼンテーションを実施いただくこととしたものでございます。

本日は、八雲中学校と藤田小学校の2校の先生にプレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンテーションは、まず、プレゼンテーションを約10分間行い、その後、委員の皆様からの自由な御発言、質疑応答の時間としたいと考えております。

それでは、プレゼンテーションの準備を行いますので、しばらくお待ちください。

○事務局

それでは、八雲中学校の「学校現場からの発表・プレゼンテーション」をお願いいたします。

○八雲中学校（丸川教諭）

皆さん、こんにちは。八雲中学校の3年生を担当しておりますと丸川と申します。

スライドを使って説明をしますのと、この後、ムービーを御覧いただきますので、よろしく申し上げます。

まず、八雲中学校の研究テーマですが、前にあるように、対話力を身につけ、主体的に学び、自治力のある生徒の育成を目指して、適宜取組活動を行っています。学校では特に

授業力について力をつけていきたいなと思っていて、教師の一方的な教え込みの授業、これも否定するものではないんですけども、でもそれだけじゃなくて、子供たちが自分で課題を見つけて解決するような主体的な学習を目指して、日々、研究をしているつもりです。

その中で、その目的を達成するために、学習意欲を高める遊びを取り入れた授業で、子供たちの意欲を高めていくのと、本年度に関しましては、本校がスマートスクール、ICTを活用した取組を研究する、実践指定校に当たっています。本校では6月に研究会を校内で実施したんですけども、そのときに作成したムービーを4分程度、御覧いただければと思います。よろしくをお願いします。

#### ～ムービー上映～

##### ○八雲中学校

以上になります。

御覧いただいたように、iPadが導入されたことによって、導入前と比べて、授業の進め方とか、生徒の学び方が大きく変わりました。ムービーでも御覧いただいたこれは理科の実験なんですけども、以前であれば、顕微鏡で見たものを紙のノートへスケッチするような形だったんですけどもiPadが導入されたことによって、これは実際、生徒がiPadのカメラで撮った内容がこういう形に鮮明に映ります。撮るだけではなくて、以前は学校に30台ほどのiPadしかなくて、これを見て紙に書いていたんですけども、昨年度から1人1台端末になりましたので、iPadを自宅に持ち帰って、自宅で画像を見ながら復習したり、学び直しができるという形になっています。ただ撮るだけではなくて、先ほどのムービーでミライシードというアプリがたくさん出てきましたが、こういうミライシードのアプリに今撮ったような画像を載せると、こういう形で、クラス全体で共有ができるので、発表がしにくい生徒とか、なかなか意見が言えない子でも、こういう形で意見を共有できるようになっています。iPadが導入されたことによって、授業展開が大きく変わっているiPadが入ったことによって、改善されたことをまとめてきました。

全てを説明すると時間が足りませんので割愛させていただきますが、実際、生徒のみんながどう考えているかということについては、まず1人1台のiPadがよかったかどうかについては、ほぼ全員iPadが入ってよかったということで、肯定率が98%となっています。なぜiPadが入ってよかったかということについては、授業が分かりやすくなった、分からないことをすぐ調べることができる、写真や動画、データなどをいつでも見返すことができる、資料などを手元の画面で見やすくなったというのが挙がりました。

次に、本校では、今年の2月から毎日iPadを持ち帰ることを始めました。そのことについてどうかということを生徒にアンケートしましたが、これもほとんどの子が肯定的に捉えています。なぜ、お家にiPadを持ち帰ったほうがいいかということですが、予習・

復習に使える、それから勉強するときに iPad があったほうが便利、ミライシードや Teams という学習に便利なアプリが利用できるということです。

ただ、課題もありまして、お家に持って帰るとなれば、充電することが必要なので、その充電を忘れてしまったりとか、あと破損してしまうことが心配ということがあるので、これが今、課題かなということになっております。生徒は、自宅で Teams のアプリを使って教師と生徒で課題をやり取りしたりとか、課題の提出をしたりというときに使っています。その他、学習のためにウェブ検索をしたり、クリップという学習アプリを使用したり、あとはNHK for SCHOOLや、もしくは教師が作成した動画や画像を確認したりしています。

最後に、iPad を使うと子供たちが遊んだりとか、関係ないことに使うんじゃないかということをご心配されると思いますが、それを防ぐために、子供たちでルールをつくりました。少し見にくいですが、右下にある iPad 活用のルール9というのが、子供たちがつくった使用ルールになります。1番と2番は、教師がこうしようねと言いました。

授業に集中するというのと、それから人を傷つけたりとか、迷惑がかかるような使い方をしないというのは、これは守るのでということをお話させていただきました。3番以降が、子供たちが自分たち同士で iPad を有効に活用できるようにということで、iPad の係の子が集まってルールをつくりました。そのルールなんですけども、95%の子が今、守れているということで、ただ、やはり5%の子はちょっと遊んだりとか、air drop で関係ないものを送ったりしている現状があるので、この指導を2学期以降、また改善していきたいなと思っています。

このように、八雲中学校では iPad を活用して、学校教育が少しでも充実するように取り組んでいるところです。私からの報告は以上です。

## ○八雲中学校

私から学校全体の取組の報告をさせていただきます。

先ほど、丸川のほうからもありましたが、授業改善、今年はスマートスクールに力を入れていますが、過去、秋田県を中心にいろんな県であったり、大阪府内の他校の視察に取り組んで、いいところを取り入れていこうと、そんな取組をしました。その中で学んだことを挙げさせていただきます。プロの教員としての意識をしっかり持とうということで、身だしなみもしっかりやっていこうという、そんな視点を持ちました。校区で小学校と連携して、共通の実践をしていくことが、子供たちの学びの定着に繋がっていくという考え方で、基本的な授業の課題を統一しようということになっています。教室環境のユニバーサルデザイン化ということで、特に教室の前方に関しては、子供たちの刺激を減らすために、できるだけシンプルな掲示物にとどめるということ意識しています。授業の有意義化ということで、あまりあれこれ広げずに、小片化、ここについて考えるということで、一本筋を通して進めていくということになっています。自治力ということで、生徒の主体

性、先ほども iPad のルールも生徒がつくったというような話がありましたが、子供たちの主体性というものを重んじた取組を進めています。

一方で、課題もありまして、予算もなく、先生の入替わりも激しいということで、これを繋げていくことの難しさを感じているのと、このコロナ禍において視察がストップしているという新たな学び、今後また復活していくでしょうが、今、一旦ストップがかかっている現状もあります。

校内での体制については、前に申ししているとおりですが、中学校では教科を超えて子供たちの学び、活動がどれだけ有効であったかというところに焦点を当てて、研究にいそんでいます。教科アンケートということで、子供たちの生の声を聞き入れて、その学びが、全教科で交流しますが、良いところを取り組んでいくという、そういったものを取り組んでいます。

それから、子供たちと学びを確かなものにしていくためには、我々教員の一人一人の質が必要でして、テーマ、校務の効率化もやっています。会議資料はペーパーレス化を実現しました。データとして準備して、これまででしたら印刷とかという作業がありました。それを省けた。様々なデータの共有等に関して、ワンノートというアプリで電子化をして、デジタル化しています。締切りをどうしても忘れてしまうのも人間ですが、それをちょっとでも防ぐために一覧にして、いついつこれがというのを分かるようにしています。一覧にして、いついつこれがというのを分かるようにしています。作業効率アップということでチームズ、先ほども子供たちの間で共有もありましたが、教員同士のチームズにデータをアップし、そこで編集作業を共有することによって、様々な作業効率がアップしています。テストに関して、アンサーボックスクリエイターというソフトが入ってまして、基本的にはテストはこれでやろうということで、今、八雲中学校では統一してやっております。

ただし、2学期以降は教員のタブレットが入る状況はありますが、現状は自前のタブレット機を使用して、通信費は自分が負担はしている現状。採点時間は削減しているけれども、機種のスぺックの問題もあって、どうしても途中で止まったりとかバグが発生したりします。もう1点は、学校はまだアナログですので、出席も紙で取り、最終的にそれを打ち込んでデータ化したものを教育委員会に提出する、通知表作成のときにそのデータを出すということが必要なので、これが一元化できると非常に手間は省けていくんじゃないかと考えています。データは溜めていっておりますので、それが使える状況ができれば、さらにプラスだと思っています。

学校運営に関してもデジタル化をほぼ促進しておりまして、これは先ほども報告があったので省きます。オンライン授業に関して、昨年度はたくさんしました。班活動でも、同様だったと捉えています。

ただし、これを始めるに当たっては、どうしても0から1を作ることのしんどさであったりとか、教師の力量差であったり、あと年度末や年度初めに関しては、様々な業務が増

えているというのが現状です。

また、授業成立の困難さということで、ちょっとコロナの学級閉鎖の要件とかが変わってきている中で、この1学期末は、教室に半数以上の生徒がいない中でも授業を進めているので、これでいいのかなと思う期間もありました。教職員も陽性、感染、濃厚接触という状況があって、代わりにやる者の負担や、でも授業は進めないと教育課程上に問題が発生するから、オンラインで配信したいができないなどの様々な問題が発生しています。コロナ禍を乗り越えて、この先どうなっていくのかは正直わからないこともありますが、この数年で得たものがプラスとなって教育活動を進めていければと思います。私からは以上です。

#### ○事務局

ありがとうございました。それでは、各委員の皆様、御質問ですとか、御意見などございましたら、よろしく願いいたします。

#### ○杉岡教育委員

とても興味深く拝見しました。授業の中で、タイムラプスを使った授業や天気・減災教育で水がきているように見える映像が見られるなど、すごく面白いなと思いました。iPadがあってよかったかという質問に対して、1%の子が悪かったと答えていると思うんですけど、よかったらなぜ悪かったと感じたのか教えていただけますか。

#### ○八雲中学校

直接は聞いていないが、書いてあったことが、すごい機械が苦手な子で単純に紙に書いたりとかの方が自分の中でしっくりくるようでした。ただ、以前は、何というか、Wi-Fi環境が悪く、iPad固まっていたりしたが、その部分は大分改善されてきて、そういうトラブルがなくなってきたので、以前は、1%ではなくもう少し多かったが、それが非常に少なくなっている現状ではあります。

#### ○杉岡教育委員

分かりました。ありがとうございます。

#### ○古川教育委員

私も2つ教えていただきたいんですけども、最初のテーマが対話力、それから主体的、自治力と書いておられて、その動画の中で、例えば今までノートとか取るのに時間かけていたところが、子供の活動も省けるところは省けて、その時間を話し合いやその発表につなげられていて、すごく素敵だなと思って見せていただきました。

また、そのルールを自分たちでつくって守るところの自治力ということもよく

理解しました。

1つ、遊びというのがサブタイトルになっていて、あれはどういうふうにこの中で生かしておられるテーマなのかなということと、もう1つは、先生たちの体制として3人ぐらいの小グループというのはお互いに助け合うことなのか、どんなふうに体制を組んで先生たちが取り組んでおられるのかと、2つ教えていただきたいです。

#### ○八雲中学校

まず1点目の遊びについてなんですけども、本当にいろんな子どもたちがいて、授業に頑張る子供もいれば、残念ながら授業の課題に取り組むまですごい時間がかかるというか授業を前向きに受けられない子もやはり現状、いるのはいるんです。そういう子でも取り組めるような課題を徹底したり、その中で、授業なので完全にお遊びにならないようにバランスを取りながら、面白い、わくわく感があるような活動を取り入れたりなど、課題を取り入れることで、クラス全員の子が授業を主体的に参加できるような仕掛けづくりをするのが我々の仕事だと考えているので、そういった意味でのわくわく感を出すための遊びづくりというふうに研究をしている状況です。

#### ○八雲中学校

2つ目の小グループの件ですが、3人でバランスを取ることが大事だと考えていますので、経験が浅い先生もいますし、私が今年で14年目となり、ある程度、経験を積んでいる先生というようなバランスを見ながら3人でグループを組んでいます。お互いの授業を見に行き、もちろん私のものが絶対いいわけではないので、若い先生の授業の中で、いいところを取り入れてみたりとか、この3人で回らせながら、またそれを全体に返したりしながら、昇華していこう、高めていこうというそういう趣旨でございます。

#### ○田中教育委員

どうもありがとうございました。

丸川先生がすごく楽しそうに、野村先生のご発言も、ミドルなんけれども、やはり若い方からも学ぼうという姿勢があって、それでひょっとしたら成功の秘訣というか、本当に素晴らしいなと思いました。

私からも2つ質問をいたします。まず、反転学習はしておられるってことですが、私も教師の駆け出しだったころに、先輩の先生から、宿題をさせることができたなら一人前だと言われたのを今でも覚えているが、ペーパーベースで宿題を出していた時と、動画の活用でできるようになって反転学習で事前に勉強させる両方を経験されているとは思いますが、子供たちの変容というか、何か違いがありますか。

#### ○八雲中学校



反転学習は、今年から取り組むというところで、まだ道半ばなんですけども、一般的には基礎的なところから授業をして、それで本当に分かったかどうかというものを紙ベースで宿題に出すというのが従来のやり方だと思うんですけど、その授業の中で考える時間であったり、子供たちの想像する時間であるのは、発展的な内容を授業の中で全員でやるというときに、どうしてもちょっと50分の授業だと時間が足りないということが発生しまして、どうすればいいかと考えたところを逆の発想で、基本的なところを宿題に出して、授業の中で、その宿題に当たる部分までやってしまおうというところなんです。

良かったところは、難しい発展的な内容だと、できる子供もいれば、やはりちょっと難しくてできないような子供もいて、でもそれが教室でやると、できる子にちょっと教えてもらい、班やペアで話し合いながら解決ができるので、一般的な宿題よりも、何というか、全体の習熟度はそれで上がってきたかなというのは捉えています。

#### ○田中教育委員

2つ目ですが、こういった授業実践を校区で共通実践をしているという報告でしたでしょうか。定例の教育委員会会議でもよく話題になりますが、守口市は中学校区でいろんな小中接続をした取組を展開しておられると聞いたんですけども、授業研究も今回共通して実践をしていくということなんですけど、そのあたりどんなことをされておられるのか、もう少し聞かせていただけたらと思います。

#### ○八雲中学校

これは秋田に実際に見に行ったときの経験から、校区で取り組んでいこうという流れができたものですが、まず授業の初めには、学習課題、この1時間で何を学んでいくのか、どういう課題を解決していくのかということを示す。これを赤枠で囲みましょう。まとめに関しては、授業の最後にする。それに関しては、青枠で囲んで、小学校も中学校、どの教科でも、どのクラスでもやっていこうという取組。授業の中に関しても導入、見通しを持って個人で考え、また仲間とともに考えて、最後練り上げて、形を作っていく、そんなことをやっていこうということで、何年か前に校区でやっていこうということで、年度当初の校区での会議で確認するなどして進めています。

#### ○江端教育委員

聞き漏らしたかもしれないんですけども、発表の取組をですね、組織的に誰かから何かやってくれと言われたのか、あるいは、自らですね、これ面白そうだし広めたいと思ってやったのか、どちらか。

#### ○八雲中学校

それぞれちょっとずつ裁量のところはあると思うが、私は、iPadを使えば授業の可能性

がすごい広がるんだっていうのは、10年程前から先輩や上司に言っていたので、iPadに関しては提案しました。私1人しか使っている人はいなかったんですけど、今や全体の90%ぐらいの先生方が使っています。

#### ○太田教育長

私もときどき八雲中学校の授業を見させていただいていますが、今日の発表を聞いて、さらに進化していると感じました。

以前から、ゲームの要素を取り入れた事業で研究されていて、ゲームというのはやはり子どもたちが、ゴールがはっきりしていて、いろんなルールのもとでやって、しかも自分たちでいろんな方法を考えながらできる要素があり、子どもたちの学びに本当に役立つと感じました。それを遊びではなくて学びという形にして、取り組まれているので素晴らしいと思って、感心させていただいております。それが今日、本当に一部だけでしたけど、あらゆる教科で取り組んでいて、体育や家庭科でもできるということを、学校全体で、各学校のリーダーシップの下に学校全体で取り組んでいただいている素晴らしい取組だと思います。

去年も発表していただいたんですが、この素晴らしい取り組みを、校区だけじゃなくてですね、全市に広めていくことが必要だと思います。

もう少しこういうふうにできたら良いといった課題も聞かせていただいたと思っております。

私も、iPadの利用を通して集まったデータを利用していくことについて、市を上げてやってかないといけないと思いました。データ加工や補整した形でデータを統合することがまだまだ、いろんな制約があってできないので、今後、様々な教育データを統合し、分析していくと、さらに子どもたちに対するきめ細かな支援ができると思っております。

あと、いろんな先生との校務情報システムとの連携も大切だと思いますので、これはやはり学校単独では難しいと思いますので、教育委員会でしっかりと、デジタルトランスフォーメーションを進めていかないといけないと思って聞かせていただきました。本当にありがとうございます。

#### ○西端市長

ありがとうございました。八雲中学校の発表でしたが、全体的に中学総体的にこういった授業をしていただいているし、今聞かせていただいて、これは守口市としては安泰やなと感じましたし、その中でも、自分たち自身も身だしなみに注意していくということも出ていて、今はパワハラとかいろいろありますので、あまり我々からは言えませんでしたけども、自分たちは自分たちの襟を正すということで、身だしなみもきっちりするということが書かれてましたので、私、本当にありがたいなと思いながら拝見をさせていただきました。

また、1点だけ質問があるんですが、このタブレットを自宅に持って帰るのは悪いことだ

という意見が13%程度ありましたが、どうい理由でそうなっているのですか。

#### ○八雲中学校

コロナ禍で今年の2月からiPadを持ち帰り始めたんですけど、当初は持ち帰って見たものの、結局やることがないじゃないという子どもが結構多くて、やはり少し重いので、それだったら学校に置いていってもいいんじゃないのという意見がありました。ただ、今ではほとんどの教科でiPadを通じて課題を出したり、生徒がやるが増えてきていたりするので、今年の後期に再度アンケートを取ろうと思っています。その際には、恐らくぐっと減るのかなと、私の願いでもあるんですけど、考えています。

#### ○西端市長

そうすると、家に持って帰って勉強しないといけないので、持って帰るのは嫌だというような子がいるということやね。そういう子もまた減らしてもらえるように頑張ってください。本日は、ありがとうございました。

#### ○事務局

ありがとうございました。

それでは、次に、藤田小学校の「学校現場からの発表・プレゼンテーション」をお願いいたします。

#### ○藤田小学校

藤田小学校5年生を担当しております秦でございます。私は今年度で教員生活16年目でございます。その中で、平成30年度から令和3年度までの4年間、小学校生徒指導主担として、また、令和3年度は、大阪府生活指導研究協議会事務局長として取り組みを図ってきた経験から、今日はこれからの学校教育について、生徒指導の観点からお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

さて、藤田小学校は御覧のように、約300名の児童が在籍する学校です。藤田小学校では生徒指導に対する様々な取組を行っていますが、本日はその中の課題の一つである不登校についてお話をしたいと思います。

まず、不登校のデータを見ていきたいと思います。これは、不登校を千人率で表し、大阪府、守口市、藤田小学校を比較したグラフです。例えば、令和2年度を見ますと、大阪府と守口市の不登校者数が千人率、約10に対し、藤田小学校では約20となっております。このことから、不登校が藤田小学校は生徒指導の観点から課題であることが分かります。不登校対応について様々な取組を行ってきたのですが、本日は対応の中で有効であった取組を3つ、御紹介したいと思います。

藤田小学校では、1. スクリーニング、2. 校内適応指導教室、3. 専門家との連携とい

う3項目を教職員と連携しながら重点的に取り組んでいます。

まずは、スクリーニングについてです。スクリーニングとは全ての児童生徒を対象として、問題の未然防止のために、支援の必要な児童生徒や家庭を適切な支援につなぐための識別方法です。藤田小学校では、不登校対応にスクリーニングシートを活用し、早期発見に努めています。また、このシートは客観的な資料としても有効です。このシートを年に5回、指導員とか先生方全員でチェックします。そして、必要に応じて会議で活用し、専門家との情報共有を行います。スクリーニングシートの最大の良さは担任の主観だけに変わらずに、気になる子どもを客観的に洗い出せるところだと考えています。会議でよくあるのは、担任から気になる児童の話をしてもらう形です。

もちろん、日頃から近くで見ているので、一番理解しているのも担任です。ただ、それもこういった会議を日頃から行っています。

しかし、担任も経験や状況によって少しずつ子どもの気になるところが違ってきます。例えば、月に1回のペースで保護者の連絡がきちんとある中、腹痛で欠席する児童がいたとします。この児童は不登校傾向が強いかどうかを考えたときに、月に1回も欠席していると捉える先生もいれば、月に1回しか欠席していないと捉える先生もいます。気になるという感覚が、先生によって少しずつ違うものです。

そこで、生活指導担当が気になるとはどういうことかの基準を設け、それを基にスクリーニングシートにつけてもらうことにしました。「特に気になる」は黒丸、「少し気になる」は白丸で表します。例えば、欠席状況のところであったら、白丸と黒丸の違いは発熱以外の理由で月に1回のペースで休むか、2回以上のペースで休むかです。この基準があるからこそ、スクリーニングシートが担任の主観ではなく、客観的視点に基づいた資料となります。そうして出来上がったのが、御覧のようなスクリーニングシートです。シート内の項目は、問題行動傾向と不登校傾向の2つに分類しています。さらに、黒丸を2ポイント、白丸を1ポイントと数値化します。このシートを客観的資料として会議で活用しています。シートの各項目を詳しく見ていくと御覧のようになります。特に、不登校傾向の項目については、例えば、「運動への意欲が低い」、「しんどいという気持ちを表現することが苦手である」など、藤田小学校で過去に別室対応していた児童の共通項も書き加えており、藤田小学校の児童の実態に合わせた項目になるように毎年検討を重ねています。

また、「気になる」を数値化したことにより、全児童を不登校傾向が気になる児童の順に並び変えることができます。これにより、どの児童を優先的に情報共有すればいいのかが明確になります。

次に、校内適応指導教室についてです。藤田小学校では、教室に入りづらい児童のために安心できる居場所として、校内適応指導教室として設置しています。ここを利用する児童のほとんどは、なぜか分からないが教室に入りづらいという思いを持っています。これだけ聞くとわがままのように判断される場合もありますが、一人一人を見ていくと、家庭環境や発達に何らかの課題を抱えています。ですので、登校するだけで、エネルギーを使い果たし、

休みがちになる児童ばかりです。

校内適応指導教室を設置することで、まず安心して登校することを目標に取り組んでいます。長期欠席を防ぐことにもつながっています。校内適応指導教室に通う児童は自分のペースで登校し、自分のペースで学習を進めていきます。そして、学生ボランティアなどの外部人材とともに、担任が用意した課題に取り組みます。校内適応指導教室を利用している児童は、登校後、今日の時間割を確認します。その中で、教室で受けられそうな授業と別室で過ごす時間を決めます。別室で過ごす場合は、担任が用意した課題をこなします。1日の見通しを持たせることで、自分が頑張れるところを決めることができます。大切なのは、本人による意思決定です。その子がどのようなペースで学校生活を過ごすか、安心して過ごすことができるのかを自分自身で知る必要があります。自分のペースがつかめない子や、意思決定ができない子はオーバーワークになり、しんどいとは言えず、長期的に休むという選択肢を取らざるを得なくなります。担任が課題を用意しますが、負担にならないよう、かごに必要な課題を入れてもらいます。別室対応の児童が毎日登校するのが難しいので、欠席した日の課題は後日行い、担任も課題がかごにたまっていけば、付け足す必要はありません。ここで大切なのは、担任が1人で別室対応を全て行わないことです。教室復帰を本人が望む場合、担任との信頼関係は不可欠です。しかし、担任は、教室の児童のことをしっかりと見ていかないとはいけません。そのために、日頃から負担にならない程度に、担任以外の先生たちも一緒にチームで別室対応をしておく必要があります。

藤田小学校では、課題の指示やどの時間だったら教室で授業を受けることができるかなどを聞くために、休み時間や空き時間などを利用して定期的に担任が別室の様子を見に行きます。その時間以外は、担任以外の先生や外部人材の方々で対応します。このように、担任の呼びかけも功を奏し、登校直後の予定では教室に行けないと判断していても、授業内容を知って、意欲がわき、教室で授業を受けるときもあります。御覧のように、ときにはZoomで教室と別室をつなぎ、リアルタイムで授業を受けることも行っております。この校内適応指導教室の対応については、外部人材を積極的に活用しています。

最後に、専門家との連携についてです。不登校傾向にある児童は、先にも述べたように、家庭環境や発達に課題を抱えているケースがほとんどです。これを先生だけでアセスメントするには限界があります。専門家とも連携し、よりよいアセスメントを行い、取り組んでいく必要があります。御覧のような方々に外部人材来ていただいて、藤田小学校が活動しております。

外部人材の中で、特に不登校に対して専門的に取り組んでいるのは、臨床心理士の先生です。守口市では、不登校支援研究校指定事業という取組で、臨床心理士が教育専門相談員という形で教育センターから学校に派遣され、不登校対応職員と連携し、行っております。昨年度は、藤田小学校が拠点校となり、対応する中で助言をいただいたり、校内で発達検査を行ったりして、ときには担任とともに家庭訪問を行ったりしました。専門家の方からの助言をいただくことにより、教員の不登校対応に対するスキルアップにもつながります。また、

発達検査から支援学級につなぐケースや、保護者面談を通して家庭での子どもに対する接し方を保護者の方にも学んでいただくことによる虐待を未然に防いだケースもあります。

また、不登校を未然に防ぐ観点から、月に1度は教育専門相談員とSSW、SSWサポーターの勤務日が同じになるように設定し、家庭的に課題のある児童の情報共有を日頃から行ったり、先生方が事前につけたスクリーニングシートを基に見立てを立てたりと、学校と専門家がうまく連携できるように、生活指導担当が調整を行ってまいりました。面談などを通して、専門家と継続して連携していく家庭は、どのケースも少なからず改善傾向が見られます。これらの取組について記録を取り、中学校区の中でも情報共有できるようにしておきます。

さて、ここからは取組を通して、成果と課題について述べたいと思います。

まず、成果ですが、不登校児童に対し、担任だけで取り組むのではなく、教職員全員でチーム学校として取り組むことができました。これにより、情報共有も的確に行うことができ、不登校傾向の強い児童を早期発見することができ、1年間に1度も登校できなかったという全欠児童は1人もいませんでした。

次に課題ですが、昨年度の藤田小学校は、授業を持たない生活指導担当、不登校専門の臨床心理士の対処など、チームとして不登校対応できる組織があったので、本日御紹介したような取組を行うことができました。しかし、ほとんどの小学校にこのような組織体制はありません。生活指導担当と学級担任を兼任しているところも多数ありますし、臨床心理士の多くは中学校が拠点となっております。また、人材不足により、ほとんどの小学校でも校内適応指導教室の設置は難しい状況にもあります。きめ細やかな不登校対応を行うためにも、どの学校でもチーム学校として取り組んでいく必要があるのです。

最後に、私が考えるこれからの学校教育の未来について、少しだけお話をさせていただいて終わりにしたいと思います。

学校という場は本来毎日の登校が楽しみであり、行きたいと思わせる場でなくてはなりません。しかし、現在の学校のシステムでは、全員がそうは思えない状況にあります。今の学校は全員が同じ課題をこなし、規律ある行動がどの子にも求められます。しかし、そういったものに馴染むことができない子がいるのもまた現実です。集団行動が苦手な子や学力が低い子にあっては、学校という場はともしんどいところになっています。そのような子どもたちでも安心して通えるように、我々大人が考えてあげる必要があるのではないのでしょうか。安心して通えることにより、学習の意欲がわいてくるので、そこから学力向上にもつながっていくことでしょう。幸い今日御紹介したように、私は子どもたちが登校するのは教室以外にも必要だと思えますし、学級担任でない教職員が関わることも必要だと思えます。また、先生だけで学校を運営する時代はもう古いと考えています。様々な専門家や外部人材とともに、チーム学校として、一人一人の子どもたちを見ていく必要があります。そして、チーム学校としての生徒指導システムは各学校で構築することにより、教職員の転勤があっても、いつでも誰もが同じような生徒指導対応することが可能となります。こうするこ

とで、子どもたちは安心して学校といえは通うことができます。

本日は貴重な時間をいただき、ありがとうございました。これで終わりたいと思います。  
ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございます。

藤田小学校のプレゼンテーションが終わりました。ただいまのプレゼンテーションについて、各委員の皆様から忌憚のない御意見や御質問などがありましたら、ぜひともお願いいたします。

○古川教育委員

すごくきめ細かい組織的な対応だなというふうに思ひまして、何かぜひ市全体でも共有され、大阪府内でも共有されてはどうかと感じまして、そのスクリーニングシートとかも年5回、全体で見られるというのがとっても大事なことだなというふうに本当に思いました。

あと少し教えていただきたいんですけども、COや臨床心理士、スクールソーシャルワーカーサポーターというのが、SSWとはまた違う立場で学校に割と多めに入っているということですよ。

○藤田小学校

そうですね。

○古川教育委員

どういう人たちがSSWサポーターになっておられるとか、臨床心理士さんの仕組みをもう一度教えていただきたいことと、もう一つは、他部局、福祉機関との連携等々はどうしておられるのかなという2点をお教えていただきたいと思います。

○藤田小学校

知っている限りの話ですが、いわゆるスクールカウンセラーと呼ばれる臨床心理士というのは、中学校区に一人配置されていまして、それで1週間に1度勤務をされています。私の学校は梶中学校区となっていますので、梶中学校に勤務されています。それとは別に、不登校専門の臨床心理士として、教育センターから2名、現在配置されておいまして、それが昨年度は、藤田小学校が拠点校となっていたため、月に2、3度の出勤をされていました。そこでは、臨床心理士とともに、お家の方とお話をしたり、子どもたちと話をしたりということで、臨床心理士と密になって小学校の先生が話すことがなかなかありませんでしたので、そういった意味ですごく良い機会だったと思います。そこにプラスして、専門家の人材として、SSW、それからSSWサポーターの方がいらっしまして、SSWの方、全体

的なケース会議への御助言であり、ちょっと2つ目の質問に答えるかもしれませんが、お家のしんどい状況などがあつたときに、市役所や他の機関との連携を学校の間に入れてくれるという役割をこなしてくれたんですけども、藤田小学校は大阪府のいじめ虐待等対応支援体制構築事業というのに参加していますので、そのサポーターとして設置されるサポーターという方がいらっしゃり、それで1日3時間、週に2日ぐらいの勤務として派遣されています。そのサポーターの方は、子ども個人についてくださったり、校内適応指導教室で子どもの横についてもらったりとかいう外部人材の使い方をしておりました。

○古川教育委員

福祉機関との定期的な協議会みたいなのは特にはないのでしょうか。

○藤田小学校

定期的な決まりの協議会というのは、特にありませんので、そのSSWの方が勤務の時間内でうちの市役所に来て、そこで連携してくださったり、先週は拡大ケース会議がありましたので、そういうときに1人のお子さんに対して、お家の方についておられる事業所の方や、いろんな福祉関係の方も来られたりして、年に何度かケース会議もしております。

○杉岡教育委員

とても分かりやすく、とても勉強になりました。スクリーニングシートの活用、客観的に見るために活用しているということですが、このスクリーニングシートというのは、藤田小学校独自のものなのでしょうか。

○藤田小学校

もともとは大阪府下全体に下りてきていますので、どの学校でもやっていきたいと思いますと言われていまして、特に私が生徒指導していたときのいじめ虐待等対応支援体制構築事業というものに参加している学校は、研修に行って、それらをどんどん使っていきたいと思いますという話は下りてきていたのですが、項目やそのシートの使い方については各学校独自のものなので、どう使っているかというのは各学校にてかなりのばらつきがあるかなと思います。

○杉岡教育委員

もしあれだったら、守口市内の学校で、使い方に対していろんな、こう使っているよ、ああ使っているよという話合いができて、もっと活用できたらいいのになと思いました。あと、チーム学校として取り組む、藤田小学校の取組がすごくきめ細かくて、本当にすてきだなというふうに思ったのですが、やはり人材が必要ということで、その辺はまた市長に人材を入れていただくようお願いしたいなと思いました。



#### ○藤田小学校

私が守口の生活指導研究協議会の幹事長もさせていただいていたので、そのときには藤田小学校ではこんなスクリーニングシートを使っていますといった紹介は、コロナ禍の研修でもさせてはもらってはいるんですけども、先ほども述べたとおり、特に小学校は生徒指導主担というのはいないというか、担任と兼任したり、シートをいろいろ会議に活用するための資料準備などに膨大な時間がかかったりするのでなかなか難しい。私は、授業を持っていなかったのも、そのときに専門家の方とスクリーニングシートを見ながらお話しする時間が取れたので、達成はできたのですが、その後が課題かなとは思っております。

#### ○田中教育委員

校内適応指導教室を守口市や大阪府でもご経験しているので、的確に生かして、今回の取組をされているなと感じたところで、安定感のあるご活躍で、説得力があったと感じております。

先ほど、杉岡委員お聞きになったことは私も聞きたいなと思ったのですが、その中で特に「気になる」基準を校内で決めていかれたと思うのですが、それは誰が関わって決められたのか。それから、決めた「気になる」基準に関して、この学級でPDCAを回すことも考えておられるのか。今後のことですが、そのあたりのこと、もう少し聞かせていただけたらと思います。

#### ○藤田小学校

4年間の生徒指導主担の経験の中で回していたのですが、1年目のときは前年度使っていたスクリーニングシートをまずはそのまま使ってみました。

数値化することにより、気になる児童を並び替えるということを始めまして、不登校傾向が強い順番に各学年、それから学校全体を並び替えるシステムはすぐに出来上がりました。

ただ、それを実際に並び替えてみたときに、現実、その子どもたちが全員不登校傾向が本当に強いのかどうかというのは、何年も見ていかないと分かりませんので、それを2年目、3年目と続けていくうちに、気になるという項目はやはり変えていかないと不登校傾向にも近づくのは難しいなと感じました。

そこで、別室登校している児童が毎年、年間で4、5名はいましたので、その子どもたちを私が近くで様子を見ながら、前述したとおりの外部人材の方もたくさん入っていただいていたので、その専門家の方々とも話し合いをしながら、どういった気になる項目にすればいいだろうという話をして、藤田小学校の子どもたちに合った項目を毎年少しずつ付け加えていったということです。これを職員会議で先生方にも4月の初めにお示しをして、本当にこの項目でいいのかということもお伝えしながら、全員で確認を取って、毎年改

良を重ねていっているというわけです。

#### ○太田教育長

今日、すばらしい実践の取組を紹介していただきまして、ありがとうございます。冒頭にもありましたとおり、小学校の不登校の子どもたちが増えているということで、本当に各小学校現場でいろいろ工夫していただいていることがよく分かりました。文科省の不登校支援のための専門家会議の提言にもあるとおり、やはり子どもたちを必ずしもその学校に戻すということではなくて、子どもたちが本当に多様な子どもたちで、しかもスクリーニングシートでいろいろ把握していただいておりますが、例えば子どもたちが何を望んでいるのかと、一人一人違うので、それに合わせた形で、これだけではなくて、教育委員会全体でその子どもたちが一番居心地のいい学びの場を確保していくという取組をしていかないといけないということを考えさせられました。どうしてもやはり、学校に来られない子どもたちというのは一定数いますし、これからも増えていく可能性もありますので、例えば、家庭訪問もしておりますし、民間の施設で学んでいる子どもたちもいますので、私たちは学校を保つということだけではなくて、そういう子どもたちがいるという前提で、そこにどういう支援をやっていくのかということ、これからの学校、教育委員会が力を合わせて考えていかないといけないということ、改めて考えさせられました。

あと、非常に組織的に取り組んでいて、本当にこれが大切な点だということは、子どもたち、いろんな段階で成長するに従って不登校になる可能性はありますので、特に本市は今、小中一貫ということを進めておりますが、中学校に入ったら、中1の不登校というのはやはり学校のギャップというのもあって、不登校になりがちな子どもが多いので、そういった意味でも、児童生徒支援シートなど、中学校に引き継いだような、小学校で傾向はなかったけど、中学校になったら不登校になった子どもたちも、原因を探る上ではやはり小中のそういった情報の共有化や引継ぎが大切だなと思いました。

また、教育委員会もそういったことを各学校の取組を支えていきたいなと思い、聞かせていただきました。ありがとうございます。

#### ○江端教育委員

スクリーニングシートというのは、藤田小学校だけにあるのではなくて、どこの学校でもあるというふうにおっしゃって、使っているか、使っていないかというその差があるということですね。年に5回、全児童を対象でやられるんでしょう。例えば1人の児童の丸か、白丸と黒丸をつけていって、つけ終わるのにどれぐらい時間かかるんですか。

#### ○藤田小学校

私も今年担任に復帰しまして、ついこの間、自分でスクリーニングシートをつけてみたんですけども10分くらいです。

○江端教育委員

1 クラスをつけるだけで10分か。それは複数で同じことをやるわけですね。

○藤田小学校

私がやっていたときは、1 か月ほどの期間を決めまして、特に思うのは、担任が全部一気につけてしまうシステムなんですけども、藤田小学校では、まず専科の先生からつけていただいて、支援学級の先生につけていただいて、いろんな先生につけていただいて、最後の最後に1 週間、担任がつける期間を持つてるということで。

○江端教育委員

担任が決めるわけですね。白だったり、黒だったり。

○藤田小学校

私の授業では、例えば落ち着いていても、別の授業ではちょっとしんどい授業があつてとか、こういった観点、学校ってよくあると思うんですけど。なので、学校の授業受けている中で一番しんどいというか、その子が負担に出ているのでつけましようということ、専科の先生がつけてくださっていたらもう、別の授業ではこんなにしんどいんだというのが担任もそれを見て分かると思いますか。

○江端教育委員

つまり、A という1 人の児童に対して、大体3 人の先生がスクリーニングをして、それ3 つとも有効だということか。

○藤田小学校

そうですね。

○江端教育委員

分かりました。ありがとうございます。

○西端市長

地域において、いろいろ取組をしていただき、どうもありがとうございます。藤田小学校は不登校ゼロでしたか。

○藤田小学校

全欠児童はゼロであるが、不登校の数はあります。

○西端市長

守口の全体で不登校の子どもの率を考えると、大体小学校であると120人弱の不登校の数だと記憶してるが、それをいかに少なくしていくかという取組をいただいていると思うが、別室での登校にはかなり来られていますか。

○藤田小学校

去年度であれば、6名の児童が通っておりました。

○西端市長

それから、教室に通えるという方向になる児童と、やはり行きにくいなということで不登校になっていく児童の比率は、どちらの方が多いですか。

○藤田小学校

藤田小学校では校内適応指導教室があったので、そこに通っていた児童は、特にその部屋がなかったら、全員学校に来なくなったであろうなという感覚を私は持っています。

適応指導教室に通っていたので、不登校は30日を超えたら不登校になるので、不登校にはなりますが、教室として授業も受けた状態でも30日を超えたら不登校という観察になりますので、皆すごくよくなったと思います。

○西端市長

よくなるほどの比率のほうが多いということですね。

そうやって先生らが頑張っていただいているおかげで、不登校もなくなっていきますけど、先ほど杉岡委員のご発言にもあったが、専門職のいろいろ予算つけてくれと言われた場合、先生の理想として、1校にどれだけの専門職の先生方を配置したらいいかというのがありますか。

○藤田小学校

私の感覚では、2名は必要です。それも福祉関係のSSWの先生と、心理関係の臨床心理士の先生です。

○西端市長

今、先生が言っていた藤田小学校の取組は、プラスして2名の専門職を配置したら、順調にいけるということですね。

教育長、一度、モデル校でやってみてはどうか。

○太田教育長

我々、教育長の間でも、やはりそういった教育相談増えているので、まず一つは、スクールカウンセラーは中学校区に1人というような形で、全国に比べて十分ではない状況です。これを何とか小学校も含めて1校に1名にしてほしいというようなことは引き続き要望しております。

ただ、私も先生と同じ感覚で、藤田小学校を見に行ったときに、やはりもう教育相談の専門の人たちが常駐していて、学校の中に常駐している状態がやはり理想だと思いますが、これは日本全体のシステムを変えていかないとなかなか難しい状況はありますが、学校現場ではニーズが高まっており、そういう状況になりつつありますので、引き続き国に要望していくとともに、市としても今何ができるのか、こういう声も聞きながら考えていきたいなと思いました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは、引き続き、次第に沿って進めさせていただきます。

次に、報告1「今後のスケジュールについて」を事務局から説明をさせていただきます。

○事務局

報告1「今後のスケジュールについて」を御説明させていただきます。恐れ入りますが、資料3「令和4年度 守口市総合教育会議の進め方について」を御参照賜りたいと存じます。

令和4年度におきましては、合計2回の会議開催を予定しており、本日、第1回総合教育会議を開催し、御意見をいただいたところでございます。次回の会議につきましては、11月頃に予定しており、議題につきましては、現時点では、「1. 全国学力・学習状況調査の結果報告について」、「2. 令和5年度以降の学校教育の充実について」を予定しております。

また、本日賜りました様々な御意見や御提案なども踏まえ、翌年度の教育大綱を踏まえた施策や予算編成等についてもPDCAサイクルにつなげてまいりたいと存じます。

第2回の会議の詳細につきましては、会議開催の期日が近づきましたら改めて、日程調整の上、御報告をさせていただきたいと存じます。説明は以上でございます。

○事務局

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明について、御意見などがありましたら、お願いいたします。

では、最後に、報告2「その他」に移りますが、本日の議題・報告以外で御意見等があればお願いします。

御意見等がございませんので、ここまでとさせていただきます。本日は、貴重な御意見や御提案をいただき、ありがとうございました。本日の議事が全て終わりましたので、西端市

長に議事進行をお戻しいたします。

○西端市長

どうも皆さん、ありがとうございました。全ての議事が終了いたしました。先ほども、プレゼンテーションしていただき、2校のいろいろな取組について分かっていただいたと思いますが、私はプレゼンテーションを先にしていただいてからこの会議をしていただいたらいいのではないかと考えておりました。時間の関係上、今回は難しいということでしたが、こうした取組の発表をこういう場でしていただくというのは、大変良いことだと思いますので、今後も機会がありましたら、皆さんに守口市の各学校の取組を発表していただきたいなと思いますので、またぜひともよろしく願いをいたします。

本日はいろいろと貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今後ともどうぞよろしく申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

◇開会

